

頭髮用化粧品を研究

私の自慢は周りの人間に恵まれていることと、運の良さである。私が化粧品メーカーの研究員になりたいと思ったのは高校生の頃だ。母の手荒れのためのハンドクリームを作ることが夢だった。大学は工学部に進み、就職活動で出会った人事課員に憧れ、頭髮や皮膚の研究も行っているホーユーに入社した。それから7年間、頭髮用化粧品と毛髪に関する基礎研究を行ない、数々の市販品・美容室専売品の開発に携わることができた。お客さまが望んでいるこ

凛としていきる

理系女性の挑戦

女性技術者の経験談支えに

とを実現するための課題解決に苦労したが、店頭に並んだ商品を見たり自分の研究成果が商品パレットに掲載されているのを見た



りすると、さらに良いものをという気持ちでいっぱいになった。お客さまと直接触れ合うプロジェクトにも参加し、良き同僚にも恵まれ仕事がとても楽しい毎日であった。

そんな私に昨年、転職が訪れた。結婚というライフステージの変化である。結婚しても働きたい、という気持ちはずっと持っていた。周りにも子育てと仕事を両立している先輩方がいたので相談できる環境にはあった。しかし私には自信がなかった。育児や介護などに対応できるのか。5年後、10年後、私はどうなっているのか。漠然とした不安に飲み込まれた。

そのような時に社外セミナー・女性技術者リーダー養成塾に応募し、第1期生16名の仲間になれたこともとても運が良かった。メンバーの共通項は「女性技術者」だけで、仕事内容、社歴、役職、ライフステージ、全てさまざまな。入社数年

目、管理職クラス、育てる。

現在は秋の国際学会での発表に向けて、先輩方と夫に助けられている、奮闘中である。

自ら社外に一步踏み出し、それを社内でも支えてもらったことで、将来の目標や日頃の悩みなど社内ではなかなか話せないことまで語り合うことができた。

ホーユー総合研究所
基盤技術研究室係長

中村 友紀



＜プロフィール＞09年三重大院工学研究科修了、同年ホーユー入社。女性技術者リーダー養成塾第1期生。